

東区、よかまち・よかところ **歩・歩・歩**

東区歴史街道を往く



香椎宮奉納「獅子楽」土鈴の獅子頭（小島与一作）

Vol. 4

歴史

歩・歩・歩
さんほ

東区歴史ガイドボランティア（さんぽ会）の
おすすめスポット Vol.4

エリア	掲載月	タイトル	ページ
志賀島	27年5月	志賀島の「金印公園」	4
和白	6月	和白高等小学校跡の記念碑	5
箱崎	7月	米一丸と八千代姫の悲話	6
香椎	8月	勅祭社としての香椎宮	7
土井	9月	土井駅周辺の産業遺構	8
西戸崎	10月	明治時代、西戸崎にあった石油メジャー製油所	9
奈多	11月	荒波に散った「奈多の波止」	10
箱崎	12月	箱崎の国指定史跡「元寇防塁」	11
香椎	28年2月	香椎宮の「勅使参拝標石」	12
名島	3月	岩見重太郎誕生之地	13
志賀島	5月	志賀島の巡礼悲話	14
和白	6月	和白と原上の境界に残る唐津街道	15
馬出	7月	馬出の史跡 芭蕉の「枯野塚」	16
香椎	8月	香椎宮「綾杉」を讃える歌碑	17
松島	9月	松島六田地蔵尊板碑	18
志賀島	10月	自然に抱かれた志賀島の「火焰塚」	19
三苦	11月	三苦綿津見神社の虚空蔵菩薩	20
馬出	12月	馬出の「お綱さん 悲話」	21
香椎	29年2月	足利尊氏方の軍議が行われた「香椎宮 頓宮」	22
名島	3月	弁才天を祭る「宗栄寺」	23

表紙「土鈴」について

香椎宮奉納の獅子楽は、福岡県無形文化財として香椎宮の氏子で構成する獅子楽社が毎年、春秋の香椎宮大祭に天下泰平、国家安全、万民豊楽、家内安全を願って奉納しています。昭和23年、第3回国民体育大会が福岡市で開催されたのを機会に、香椎観光協会、森信夫氏が博多人形の権威、小島与一氏に依頼してこの由緒深い「獅子楽」の獅子頭の陰・陽を土鈴に考案されました。

土鈴は赤と緑の対で裏には「与一」とともに「香椎」の文字が焼き込んであります。

あいさつ

東区長 小西 眞弓

東区歴史ガイドボランティア連絡会（愛称・さんぽ会）は平成21年4月に発足し、志賀島、香椎宮、筥崎宮などの歴史的資源に恵まれた東区において、市民の皆さんが東区の歴史に触れ、地域に愛着を持ってもらえるようにと、東区の魅力発信に寄与していただいています。

平成21年5月から市政だより東区版に連載している「歴史さんぽ」は、同会の皆様から原稿や写真などの提供をいただき、編集をしています。この連載をまとめた「東区歴史街道を往く」の4冊目となるVol.4を作成いたしました。地域の身近な歴史や文化に関する情報ガイドブックとして、ご活用いただければ幸いです。

最後に、本書の発刊にあたり、ご尽力いただきました「さんぽ会」の古賀会長をはじめ、会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

「さんぽ会」会長 古賀 偉郎

「古い歴史にも毎年のように新発見がある。とつくの昔に学んだことも修正していただければ」とは「歴史秘話ヒストリア」の案内役、渡辺あゆみさんのセリフである。最近でも沖縄で二万三千年前の巻貝製の釣り針や古賀市船原古墳から金銅製の馬具類が発見された。変化する歴史の舞台に私どもは付いて行くのが精一杯、否遅れ気味の感さえありますが、多くの区民の皆様の温かいご声援を受け日々活動を続けてまいりました。ここに「東区歴史街道を往く」Vol.4をお届けできます事を心よりお礼申し上げます。これからも、日々研鑽に励み、より新しい、より深みのある歴史的情報を発信して東区の「住みよい街づくり」に微力ながらお手伝いできればと願うものです。

最後に本書の発刊にあたり、ご尽力を賜りました小西眞弓区長をはじめ、関係部課並びに諸機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

志賀島の「金印公園」(志賀島)

今から230年前、江戸時代の天明4(1784)年に「漢委奴国王」として贈られた金印

が志賀島で発見されました。金印は弥生時代の紀元57年、中国の後漢王朝が奴国に贈ったとされており

り、教科書にも載る横綱級の国宝で、福岡市博物館に常設展示されています。

志賀島の南側に金印発見を記念した金印公園があります。能古島の也良岬を対岸に望む公園の入口には「漢委奴国王金印発光之処」

記念碑が建立されています。園内には志賀島を中心とした古代の地図や福岡の地と関係の深かった中国の古代史家で文学者でもあった郭沫若の詩碑、福岡市と中国広州市の友好都市締結の記念碑などが建っています。

金印は紀元一世紀、日本と中国が交流していた確かな物証であ



金印公園にある志賀島を中心とした古代地図

り、当時をうかがい知る第一級の資料といえます。しかし、この金印は発見以来、今日に至るまで、出土状況や、なぜ志賀島に埋められたのかなど、多くの謎に包まれています。

【案内人】 山村 尚志



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

和白高等小学校跡の記念碑（和白）

JR和白駅前通りの通りを梅ヶ崎団地（国道495線）に向かって進むと左側に和白高等小学校跡の記念碑が立っています。この碑は、

本校の正門跡に立てられており、裏面には「この地域は私達の母校

和白高等小学校の跡地である」とあります。校区は、とても広く、和白、香椎、新宮、立花、志賀島の各村でした。

本校が設立された明治33（1900）年は、義務教育の尋常小学校と、卒業後に進学する高等小学校がありました。当時の東区は粕屋郡の一部で、郡内の高等小学校は本校の他、青柳（現古賀市）、久原（現久山町）、大川（現粕屋町大川）、宇美、箱崎の五校でした。

記念碑の台座石には初代・2代校長をはじめ、生徒たちの名前がびっしりと刻まれています。

当時この付近には人家は少なく



当時は白砂青松の地でした



白砂青松に囲まれていました。生徒たちは、山を越え田畑のあぜ道や小川を渡り、浜を走り、松林をくぐり抜け一路本校を目指したのでしょうか。学校は、明治33（1900）年創立、明治45（1912）年の教育制度改革により12年間の短い歴史に幕を下ろしました。

【案内人】 中島 利幸

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

よねいちまる 米一丸と八千代姫の悲話（箱崎）

JR箱崎駅と名島橋の中間辺りの線路脇に朱塗りの御堂と、その傍らに石造九重塔があります。これが博多の伝説の中でも有名な悲劇の主人公・米一丸と八千代姫を祭ったものです。

米一丸は駿河国^{すまがのくに}生まれで、武勇



朱塗りの御堂と石造九重塔（左）

に秀で賢明な若者でした。文治2（1186）年、京の主君・一条氏は米一丸に博多へ名刀を受け取りに行くよう命じました。実は、米一丸を殺害し、美人妻・八千代姫をわがものにしようという一条氏の策略でした。

博多を出立の夜半、敵の一行は多勢で宿舎を急襲。米一丸も敵を倒しながら逃れましたが、ついに力尽きて、箱崎松原で自決しました。米一丸、時に21歳。この事情を聞いた八千代姫は密かに博多に下り、悲しみに耐えきれず、米一丸の墓前で自害しました。八千代姫、時に16歳。さらに米一丸の母親も筑紫路を目指しましたが、

^{あぢまち}畦町宿（現福津市）で、非業の死を聞き、疲れも重なり亡くなりました。

住民はこれを哀れみ、箱崎に石造九重塔、畦町に親子地藏二尊を建てました。ここは今でも供養のため、近隣の人たちが手向ける線香の香りが絶えたことはありません。

【案内人】箱島 文衛



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

勅祭社としての香椎宮（香椎）

香椎宮は仲哀天皇・神功皇后を主祭神として祭っています。仲哀天皇は熊襲の反乱を鎮める拠点として、香椎の地に来られ、志半ばで崩御されました。神功皇后がこの地に祠を建て、仲哀天皇の神霊を祭ったのが香椎宮の起源といわれています。



参進する勅使（左端）の一行
(2005年)

香椎宮は伊勢神宮に次ぎ朝廷から尊びあがめられ、定期または随時に勅祭が行われてきました。勅祭は、天皇の使者である勅使を派遣し、「祭祀奉幣」という神前に五色の布（幣帛）を献上して、天皇のお言葉を奏上することです。これを執り行う神社を勅祭社といえます。

現在の勅祭も古式にのっとり執り行われています。勅祭社は伊勢神宮と全国に16社あり、九州は宇佐神宮と香椎宮の2社です。香椎宮勅祭は、天平9（737）年から今日まで138回、斎行されました。南北朝時代に一時中断されましたが、延亨元（1744）年、

江戸時代中期の桜町天皇のときに再興されました。以後勅祭は、60年に一度、大正14年からは10年ごとに行われています。今年（平成27年）がその年に当たり、10月9日に斎行されます。当日は、三の鳥居から本殿まで、勅使が参進するところを見学できます。

【案内人】 党 礼子



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

土井駅周辺の産業遺構（土井）

博多湾鉄道は、糟屋郡内の「海軍炭鉱」の石炭輸送を目的に明治37年1月1日、西戸崎〜須恵間に開業し、同時に土井駅も開設されました。開業から1カ月後の2月8日に日露戦争が勃発。軍艦の燃料が石油（重油）ではなく石炭



田んぼに立つ最後の鉄塔

であった時代、開戦前の緊迫した状況でした。久山町の猪野および久原では、明治から大正にかけて銅鉱や石炭が採掘され、馬車で土井駅へ運ばれました。当時、土井駅舎と反対側の北面道路を鉱石道と呼んでいました。銅鉱と石炭は土井駅から香椎駅へ、さらに銅は大分県の佐賀関精錬所へ、石炭は広島県呉の軍港へ鉄道や西戸崎港から船で運ばれました。

昭和19年の戦時買収で駅は国有化され、「国鉄香椎線土井駅」となりました。八田・土井地域は日本軍の食糧や医薬品の倉庫群があり、土井駅から倉庫群までの引き込み線が敷かれていました。

昭和23年、久山町猪野に麻生山田炭鉱が開坑。石炭は当時としては最新式の空中ケーブルで土井駅へ積み出していました。石炭産業の斜陽化で昭和42年9月に炭鉱は閉山。現在、名子二丁目の田んぼの中に一基だけ、空中ケーブルを支えた鉄塔が立っています。

【案内人】 鎮守 宏之



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

明治時代、西戸崎にあった 石油メジャー製油所 (西戸崎)

石炭に代わりエネルギーの主役として、日本経済をけん引した石油メジャー（石油系巨大企業複合体）の製油所が明治時代に西戸崎にありました。

横浜の貿易業サミュエル商会の石油部門ライジングサン石油株式



タンクがずらりと並ぶ油槽所

会社は明治40（1907）年ロイヤル・ダッチ・シェルと合併し日本で事業を開始しました。ライジングサン石油は明治41（1908）年ボルネオ原油を精製するため、南洋からの輸送に便利な西戸崎に製油所建設を開始。建設工事終盤の明治42年2月、タンクの水張り検査中に突然タンクが破裂し、工事関係者9人が死亡、重軽傷者数人という悲惨な事故が発生しました。工事請負会社の社主が来福し、同年7月、工事で亡くなった人たちの冥福を祈り、地鎮碑と稻荷神社が建立されました。約100年経った今でも毎年「タンク祭」として「安全祈願」が行われています。

製油所は輸入原油の調達難から大正4（1915）年に精製事業を停止し、油槽所として存続。戦後一時は米軍の専属油槽所となりました。石油製品を貯蔵する油槽所は、現在も北部九州地区への重要な石油製品の供給基地としての役割を担っています。

【案内人】石井 志津子

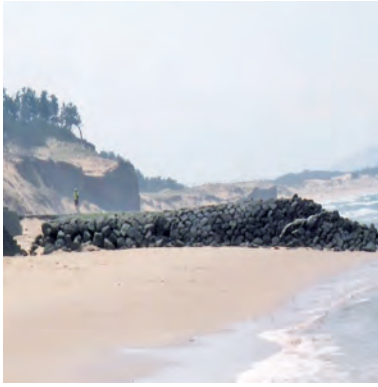


歴史

歩・歩・歩
さんぽ

荒波に散った「奈多の波止」 (奈多)

奈多地区は玄海国定公園に面し南に波静かな博多湾と、北に厳しい季節風と荒波を受ける玄海灘、そして海の中道に通じる入口に当たります。白砂青松の美しい景色は、いにしえから今日に至っています。



積年の波浪によって崩れた「奈多の波止」

志式神社の丘からお潮井道を降りていくと、白砂が続く浜に出ます。ここから志賀島へと続く浜が奈多の浜です。人恋しさに鳴いたという鳴き砂は、今では聞くことができなくなりましたが、風が作り上げた自然の幾何学的な模様の風紋は、浜の至る所で見ることができます。

浜にある堤防は、かつて漁師が使用していた「奈多の波止」です。現在は間をおいて四つの波止が沖に向かって突き出しています。先端部は積年の波浪によって崩れ、波に洗われています。補強や修理を加えたようですが、玄海灘の荒

波にのまれ、その姿は崩れかけた状態となっています。

志式神社の絵馬堂には、往時を語る豊漁図の絵馬が掲げられています。時代と共に生きてきた波止は、漁場を愛した奈多の人々の思いをしのばせ、静かにたたずんでいるようです。

【案内人】 酒井 孝司



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

箱崎の国指定史跡「元寇防塁」（箱崎）

元の皇帝フビライは、日本に通交を求めてきましたが、鎌倉幕府

がこれに応じなかったため、文永11（1274）年10月、博多湾に攻め込み、九州の御家人たちと激しい戦を繰り広げました。この時、



公園に立つ記念碑

箱崎は火の海となり筥崎宮も兵火に遭い、ご神体は宇美町の極楽寺へ移されました。

鎌倉幕府は、元の再襲に備えて九州各地の御家人に命じ、建治2（1276）年3月から約半年間で西は今津から東は香椎まで、博多湾の海岸線20キロにわたり高さ約2・5メートルの石築地、元寇防塁を築かせました。箱崎地区の防塁は、薩摩国が担当し、南の千代付近から地蔵松原付近まで約3キロにわたって築かれました。

箱崎地区では、明治20年代の初め、現在のJR鹿児島本線建設工事の際に、防塁跡が初めて発見されたと言われています。昭和6年

3月、元寇防塁は国史跡に指定され、地蔵松原公園内に、その記念碑が建てられました。

なお、弘安4（1281）年6月、元は再び日本を攻めましたが、この防塁に阻まれ、博多の地に上陸することができませんでした。

【案内人】 山辺 信男



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

香椎宮の「勅使参拝標石」

(香椎)

天皇の使者である勅使が供え物(幣物)を献上して、神前に天皇のお言葉を奏上する神事を勅祭といひます。これを行う勅祭社は伊勢神宮と全国に16社あり、九州は宇佐神宮と香椎宮の2社です。香椎宮は神功皇后の縁で建てられた



勅使参拝標石「御手水所」

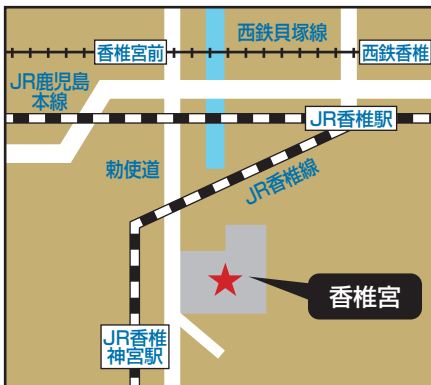
お宮で、国家鎮護・国土防衛の神様として、皇室から寄せられる思いは深く、天平9(737)年から事あるごとに、勅祭が行われてきました。

大正11年3月、貞明皇后が大正天皇の平癒祈願と皇太子がヨーロッパ旅行から無事帰国したお礼に、香椎宮に参拝されたのを契機とし、大正14年以降、勅祭は10年ごとに行うものと定められています。最近では、平成27年10月9日に執り行われました。

香椎宮境内には、奈良時代に建てられたと推定される勅使参拝標石があります。綾杉と勅使

館の間に御休息所、中門階段下左に御手水所、同右に御祓所、拝殿の左に御脱剣所、同右に衛士居所(勅使に仕える人の控えの場所)と五つの標石があります。勅使または大宰帥(大宰府の長官)が香椎宮に参拝した時の儀式の順序を示したもので、全国でも香椎宮だけにある貴重な標石です。

【案内人】 森本 啓三



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

岩見重太郎誕生之地

(名島)

名島三丁目の「お観音様ひろば」の辺りには、16世紀後半、名島城主である小早川家の家臣たちの屋敷が立ち並んでいました。現在、その一角に「岩見重太郎誕生之地」の石碑が立っています。

岩見重太郎は、小早川家の剣術



豪傑の名を伝える石碑

指南役の次男として生まれました。伝説的な豪傑といわれた彼は、父親を殺した広瀬軍蔵を追ってあだ討ちの旅に出ました。その道中で猿の姿をした妖怪・狒狒ひびの退治など数々の武勇伝を残しています。そして、慶長9（1604）年9月20日、丹後の天橋立でついに軍蔵を討つことに成功しました。その後、重太郎は「薄田隼人正兼相（すすきだはやとのしょうかねすけ）」と改名し、豊臣秀頼に仕えたといわれています。慶長20（1615）年の大坂夏の陣では、真田信繁（幸村）らと共に出陣。5月6日の道明寺の戦いで奮戦するも、戦死しました。

この石碑は大正13（1924）年に建てられ、平成19（2007）年に再建立されたものです。石碑は、明治から大正の世に子どもたちの憧れだった豪傑の名を、今に伝え続けています。

【案内人】 池間 夏子



歴史

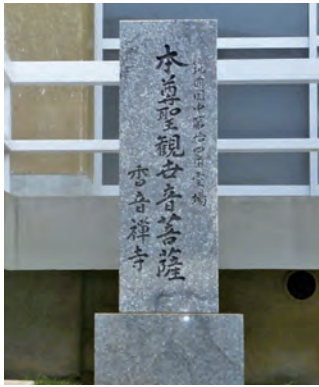
歩・歩・歩
さんぽ

志賀島の巡礼悲話

(志賀島)

霊場巡拝の歴史は古く、和銅6(713)年との記録が残っています。僧侶や神官、貴族や武士など上流階級の人々の信仰心から始まった霊場巡拝が江戸時代に大衆化し各地に霊場ができました。

筑前国中三十三力所観音霊場も江戸時代の元禄10(1697)年の発足といわれ、第十四番霊場が



香音寺本堂前の標柱石

志賀島の弘ひろにある弘休山香音寺こうきゅうざんかうおんじです。寺の本堂には、幅約15センチ、高さ30センチの大きな位牌があります。表に男女2人の法名に並んで「大東亜戦水難死者之英霊外遭難死者霊位」と大きく記され、裏面に供養の由来と施主の名、昭和20(1945)年3月と供養の日付があります。由来には、文化9(1812)年3月、旧秋月藩夜須郡江川村(現朝倉市)の江川善市さん夫婦と同行者数人が霊場巡拝の途中、十四番の香音寺から十三番の光明寺(西区小田)に向かうために志賀島の弘から宮の浦へ小船で渡る途中、春の嵐に遭い水難死したと記されています。

難者の子孫が供養を申し出、お寺が位牌を作り安置したといえます。昭和20年とは敗戦の年、「大東亜戦云々」は戦没者をも併せての供養だと思われ、子孫は今も先祖のお参りに訪れています。また、当時の船頭の子孫も香音寺に石造の地藏菩薩ぼだいづつを寄進し、今も供養を続けています。

【案内人】 古賀 偉郎



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

和臼と原上の境界に残る唐津街道 (和臼)

主に筑前黒田藩・肥前唐津藩主が参勤交代に使った唐津街道は、寛永19（1642）年の畔町宿（あぜまちしゆく）の新設により完成し、当時は筑前街道とも呼ばれていました。和臼と新宮町原上の境界に残る街道はまさしく古街道にふさわしい旧道（現在は林道扱い）



参勤交代が通った旧道

として息づいています。

県道504号線を香椎方面に進むと、秀吉ゆかりの太閤水井戸から千田の夜泣き観音堂へ出ます。さらに進むと国道3号線に交差し旧道は遮断されます。国道を横断し西側の旧道に入る曲がり道を南に進むと、右側に「唐津街道」と刻まれた石碑があります。やがて両側が木々に覆われた上り道となり、竹藪が続く旧道の半ばに「駕籠立場（かごたちば）」があつたといわれています。当時は多くの旅人や福岡城下で往来する行列の休息、駕籠などの手配場所、馬も用意されていたようです。高

台の丘から立花山を目前に望む尾根は、立花山へ続いていたと聞きます。

今は国道3号線が大動脈となり、旧道は断ち切られて往時をしのぶことは難しくなっています。わずかに残る1.5kmの旧唐津街道は、手付かずの姿を見せて訪れる人たちへ400年の歴史を語り掛けているようです。

【案内人】 酒井 孝司



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

馬出の史跡

芭蕉の「枯野塚」かれのつか

(馬出)

馬出一丁目、NTT西日本・馬出ビルの裏通りの路地奥に芭蕉塚の一つである枯野塚があります。芭蕉塚は、俳聖松尾芭蕉を敬慕する門人たちにより建立されており、現在、全国に192基があります。



「芭蕉翁之墓」と刻まれています

元禄7(1694)年10月

芭蕉は、大阪南御堂で逝去。死の4日前に弟子の呑舟どんしゅうに書き取らせた「旅に病んで夢は枯野をかける」が辞世の句とされています。元禄12(1699)年、芭蕉の高弟・向井去来むかいきよらいは、故郷長崎から京都に帰る途中の博多で、蕉門下しやもんかの箱崎の僧、松月庵晡川しょうげつあんばせんと出会いました。その時、去来は、晡川に芭蕉の辞世の短冊を送る約束をし、後日、京都から送りました。

晡川は、この好意に深く感謝し、博多に行脚来遊していた同じ芭蕉の高弟・志太野坡したのやばに「芭蕉翁之墓」の碑銘の書を依頼し、元禄13(1700)年に枯野塚を建立

しました。この枯野塚の左に並んで「晡川菴主之墓」があり、正徳3(1713)年と没年の銘が記されています。

明治26(1893)年10月、芭蕉200回忌に際し、句が刻まれた新しい枯野塚(句碑)が建立されました。枯野塚は、昭和31年7月に福岡県文化財(史跡)に指定されています。

【案内人】 山辺 信男



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

香椎宮「綾杉」を讃える歌碑（香椎）

香椎宮の御神木「綾杉」は、御祭神・神功皇后の魂宿る尊い木で、皇后が鎧よろいの袖に挿していた杉枝を、平和を願って御手植えされたのが大樹になったと伝えられています。

この由来は広く知られていたのか、約800年前の新古今和歌集に「よみ人知らず ※千早振香椎



明治14年から「綾杉」の傍らに立っている歌碑

た。親王の「有栖川流」の豊麗な筆跡は、参拝者を魅了しています。古歌には、金箔きんぱくが施され気品ある光を放っています。約130年を経た薄墨色の歌碑は、樹齢

の宮の綾杉は神の御衣木（みそぎ）に立てるなりけり」の一首があり、この古歌を刻んだ碑が綾杉の傍らに立っています。新宮湊村の酒造業・堺萬七氏から奇進ありすかわのみやたるひとされました。書は陸軍大将有栖川宮熾仁親王

によるもの。親王は歌道・書道を家学とする宮家の9代当主。初代の福岡県知事で、その後明治政府の要人として活躍しまし

1800年の深緑の綾杉とよく調和して、御神木を讃えるように立っています。

※香椎の宮のあや杉は、香椎の神の御神木として立っているのである。岩波書店新日本古典文学体系11巻第19神祇歌

【案内人】 田中 啓子



歴史

歩・歩・歩
さんぼ

松島六田地蔵尊板碑 (松島)

昭和49年8月指定の市文化財
「正平廿一年銘梵字板碑」は、

地域住民に「松島六田地蔵尊板碑」として、親しまれています。高さ約40センチの板碑は、松島公園にある祠の中にあり、溝がV字形となる葉研彫で釈迦如来を表す梵字と次の3行の銘文が彫られています。

右造立如件
聖中禪門



円の中に梵字が刻まれています

正平廿一年七(以下欠損)

写真左下部分

このように梵字で仏様を表した供養塔を板碑といい、銘文の「正平廿一年」は南朝年号で、西暦では1366年です。この板碑は建武3(1336)年の多々良滷合戦で足利尊氏軍に敗れた南朝方菊池武敏軍の戦死者の霊を供養するため、菊池武光が建立したと伝えられています。板碑は、松崎と箱崎の農家にお地藏さんとして厚く信仰され、松崎村の住民が多かったことから「松崎六田地蔵尊」として祭られてきました。

この地域は昭和30〜40年代に区画整理・農地改革が大規模に行わ

れ、人口が急増。他から移住してきた住民がほとんどで、心のよりどころを地藏尊に求めました。平成5年に松崎・箱崎の有志から松島の住民が祭祀権を引き継ぎ、名称が松崎から「松島六田地蔵尊」と改められました。

松島の住民は地藏尊の祭祀や清掃を欠かさず、毎年7月24日は地藏祭が行われています。

【案内人】 鎮守 宏行



歴史

歩・歩・歩
さんぼ

自然に抱かれた志賀島の「火焰塚」(志賀島)

苔の生す花崗岩と広葉樹林の自然に守られるようにたたずむ、不動明王の光背の火焰を祭る「火焰塚」。志賀海神社のそばを流れる溪流に沿って行くと道は二股に分かれ、右に進むと見えてくるお堂の辺りを火焰塚と呼んでいます。

1274年の文永の役、元寇で



お堂の辺りで祈祷が行われました

博多とその周辺は壊滅。その後九州の御家人により今津・香椎間の海岸線に石築地(防塁)が築かれました。1281年の弘安の役では、防備の手薄な志賀島・西戸崎が戦場。島では「敵国退散・国家鎮護」祈願の壇を築き、高野山南院の不動明王の尊像を供えて僧侶や島民が護摩を焚いて祈祷を続ける中、昼夜陸海で激戦が続きました。戦いは、疾病や自然災害(台風)も重なり、双方に大きな犠牲を残して終息。僧侶が不動明王を護持して寺へ帰ろうとしたとき、島民や武家から「光背の火焰」を島に残してほしいと懇願され、この地にとどめたと伝えられています。

火焰の所在は不明ですが、僧侶や島民が世の安寧や災厄を祈ったこの場所は、火焰塚として、地元から大切に守られています。700有余年の時の流れの中で、静かにたたずむ「火焰塚」。荒海から吹く風の中で、志賀島の豊かな自然を満喫できる平和の尊さを問いかけてくるようです。

【案内人】城戸 重臣



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

三苦綿津見神社の

「虚空蔵菩薩」(三苦)

綿津見神社境内にある虚空蔵菩薩は延暦24(805)年ごろ最澄法師が彫った木像と伝えられています。これを含め、神社境内には、平成8年に市有形文化財に指定された五躯の仏像群があり、地誌の「筑前国続風土記附録」と「筑前国続風土記拾遺」にも紹介されています。五躯は虚空



最澄法師が彫ったと伝えられる木像

蔵堂と大日堂に祭られ、木造伝虚空蔵菩薩立像、不動明王立像、吉祥天立像、如来形立像(伝大日如来像)の四躯は平安時代後期、木造伝薬師如来像は、南北朝時代の作とみられています。

玄海灘沿岸の古代・中世の宗教文化を物語るもので、廃仏毀釈を免れ、海中から引き上げられたともいわれています。虚空蔵菩薩は朽ち果て、顔の形もはつきり見えない状態です。

虚空蔵菩薩は、知恵の神様・「こくぞう」さんとして知られる一方「空(無一文)から蔵が建つ」ともいわれています。

三苦では、財産の神として、縁

日に「こくぞう」さん(神社に置かれた紙に包まれた小銭)からお金を借りると、その一年間は、小遣い銭には困らないといわれています。一年後には、借りたお金は倍にして、さい銭として返すのがしきたりで、数百年来の厚い信仰が残っています。「こくぞう」さんの縁日は毎年1月13日に行われています。

【案内人】酒井 孝司



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

馬出の「お綱さん 悲話」 (馬出)

今から四百年ほど前、お綱さんは、福岡藩上級武士の夫・麻井四郎左衛門と幼い子ども2人と円満に暮らしていました。しかし、藩主・忠之公が寵愛する芸者・采女を夫が身請けせざるを得なくなつたことからその状況が一変します。



お綱さんの墓の横に小さな墓石が二つ並んでいます

箱崎釜破故(1815年写本)の記録によると、夫と采女は上屋敷に住み、お綱さんと2人の子どもは馬出の下屋敷に住むことになりました。夫は頻繁に下屋敷へ通うことを約束しますが、次第に疎遠になり、2年が経過しました。見かねた下男2人が上屋敷へ出向くと、屋敷への出入禁止と仕送り停止を告げられます。その後、下男の1人が首を吊り自害したことを知つたお綱さんは狂乱し、2人の子どもの手に掛け、長刀を持つて夫のもとに向かいますが、上屋敷に寄宿していた浅野彦五郎に切られ息絶えました。

現在お綱さんの墓は、当時の下

屋敷跡といわれる、NTT馬出ビル裏手(馬出五丁目)にあります。墓石の表には「円通院義操妙綱大姉」、裏には「寛永七年三月三日、俗名麻井おつな」とあります。向かって左の二つの小さな墓石には、背面に母と同じ日付が刻まれ、今でも花が手向けられています。

【案内人】蒲池 裕子



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

足利尊氏方の軍議が行われた

「香椎宮 頓宮」
（香椎）

1333年、鎌倉幕府は後醍醐天皇による「建武の新政」で終焉します。しかし、功績のあった武士に恩賞はなく、貴族中心の公家政治に不満が募りました。武士の多くは、武士による統治を理想とする足利尊氏を新リーダーに求めました。



頓宮は御旅所ともいわれ、神幸祭などで御輿を一時的に休ませる所です

天皇方と対立した尊氏方は、当初優勢に攻め、一時は京都を確保したものの、北畠頼家等との戦いに敗れ、九州へ。1336年2月末に芦屋へ上陸後、宗像大社を経由し、香椎へと進みました。尊氏方は菊池武敏等、九州の有力豪族と多々良川で対峙し、2千対2万の兵力の差に負けを覚悟します。3月2日、尊氏は頓宮での軍議後、香椎宮を参拝。空飛ぶ鳥が「御神木の綾杉」の枝を兜に落としたりと、尊氏が「勝利のお告げだ」と言いつと、全軍から氣勢が上がりました。

強い北風の中、逆風となった天皇方は矢が途中で川に落ちるなど



で戦気が弱まり、裏切り者も出て混乱し敗走。1カ月後、九州を平定した尊氏方は、数万人の大軍となりました。5月25日、摂津の湊川で楠木正成軍を破り、再度入京し幕府創立へと続きます。

香椎宮頓宮での軍議が果たした役割は大きく、敗者復活・大転換のきっかけとなった由緒ある場所となっています。

【案内人】桂 裕行

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

弁才天を祭る「宗栄寺」(名島)

西鉄名島駅を下車し、国道3号線を横断、旧名島火力発電所への石炭搬入の引き込み鉄道線路跡の通りを通って名島神社を目指します。名島神社の南側に宗栄寺があります。参道口にある「辨才天(べんざいてん)」の額のある鳥居を



参道を通って正面にある弁天堂

くぐって石段を上がり、参道両側の植木、蛇の石像や石仏などを見ながら進むと弁天堂があり、その左側にあるのが宗栄寺本堂と薬師堂です。

徳川家光の治世、寛永14(1637)年に島原・天草地方で島原の乱が起き、黒田藩の武将として出陣した岡田半兵衛利良と息子の左衛門正興は、翌年の寛永15年に父子共に戦死しました。利良の妻は尼となり向春院と改名し、夫と子を博多の妙榮寺に埋葬。二人が戦で着用した甲冑や肌着などの遺品は、昔の城壁(名島城)に納めて精舎(せいしゃ)を建て、家臣の子で比叡山で修行中の真性坊俊導を開

祖として招きました。向春院は死後、贈り名を「宋栄」とされ、寺は宋栄寺と名付けられました。

宗栄寺は名島にあった神宮寺の末寺でしたが、明治初年の神仏分離により、神宮寺は廃寺になり、「弁才天尊」が宗栄寺に移されました。寺の表札には、「天台宗弁才天別当宗栄寺」とあり、本尊は薬師如来像、別本尊は弁才天です。

【案内人】加藤 祥子





(坂本恒義氏作)

東区歴史街道を往く Vol.4

- 発行 福岡市東区役所 平成 29 年 3 月
- 編集 東区歴史ガイドボランティア連絡会

『歩・歩・歩（さんぽ）会』の愛称について

「新しい人たちと歩み、地域の人たちと共に歩み、ボランティアとしてのヨチヨチ歩きを始める私たち、この三つの歩みを積み重ねていきたい」との思いから、また、地域の歴史を楽しく散歩する意味から、三歩と散歩で「さんぽ会」としたものです。

『さんぽ会』のホームページを公開しています。

URL: <http://www.e-sanpokai.skr.jp/>